

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0272700428		
法人名	社会福祉法人ファミリー		
事業所名	ハピネス		
所在地 (電話番号)	〒039-1552 青森県三戸郡五戸町姥堤34の1 (電話) 0178-62-7222		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月26日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	5,100 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(9月 26日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80 歳	最低 61 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みかわ神経科内科、五戸総合病院、下長内科クリニック、小村歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境の中で、四季を感じながら生活されている。同敷地には、入居者も足を運びやすい場所に花壇や畑があり、家庭的な雰囲気を感じさせてくれる。居室は、入居者の好みに合わせた配置になっており、職員は、入居者の個性に合わせ、言葉掛けやかかわりを工夫している。入居者と職員の笑顔があり、温かな空間を感じさせてくれるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	権利擁護に関する制度の理解と活用について、必要な時に支援できる体制作りのため、職員全員が制度を理解できるよう、研修への参加や勉強会等を計画的に実施することを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価を実施する意義を全職員が理解し、全員で自己評価を行い、外部評価結果に対してもミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。運営者には話し合いの結果等を報告し、改善への協力が得られている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	グループホーム職員からの報告(自己評価・外部評価、事故報告や新入居者報告など)及び話し合いが行われている。その他参加者からの意見等をケアに取り入れ、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	常日頃、家族とのコミュニケーションをとる機会をつくり、意見や苦情などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。入居者やご家族からの意見を取り入れる姿勢を持っており、職員で共有し、話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	災害対策や、運営推進会議など地域住民が参加協力する体制ができている。また、入居者も地域住民として、地域の行事や催し物、保育園の園児とのふれあいなど積極的に交流するように心がけている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年、地域密着型サービスの役割を踏まえた新しい理念を職員全体で話し合い決めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングの際や、ケアの見直しを行う際、理念を基に振り返りを行うように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日常的に買い物に出かけて挨拶を交わすなど、顔なじみになってきている。五戸祭り・田の草取り踊りの見学・文化祭等地域の行事やクリスマス会・運動会等保育園の行事にも参加したり、インターシップを受け入れたりして、地域の方々や子供たちに認知症を理解してもらうよう取り組んでいる。キャラバンメイトとして活動している職員が法人内におり、その方の研修会に参加して今後勉強していく予定である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義を全職員が理解し、全員で自己評価を行い、外部評価結果に対してもミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。運営者には話し合いの結果等を報告し、改善への協力が得られている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員・介護保険課課長・介護支援専門員・入居者代表・職員代表が参加し、事業所からの各種報告の他に、参加者より意見や質問などをもらいサービス向上につなげている。参加できない家族へは会議内容の報告を郵送にて行っている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での話し合いのほか、認定調査の更新申請の際に担当者と状況確認したり、その他何かあれば、随時担当者と話し合えるようにやりとりを行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について現在対象者はいないが、内部研修等にて学ぶ機会をもつようにしている。また、今後は運営推進会議等で家族の理解も深めていくことを考えている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内に虐待防止委員があり、勉強会の場で周知している。また、見えない虐待への意識も高めていけるように、全職員で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書の説明を行い、不安や疑問を出していただき、納得した上で入居してもらっている。また、看取りに関しても入居の際に指針などの説明をし、家族および本人の意向の確認を行っている。		
10	12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や各行事への参加の際、ご家族へ健康状態などの近況報告を行っている。面会の少ないご家族へは電話にて報告するようにしている。また、暮らしぶりについては年3回グループホーム便りを送り、その際に伝えるようにしている。		
11	13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事などの参加時に意見や苦情などを出しやすい雰囲気にも努めている。また、運営推進会議でも意見の吸い上げができています。	○	職員に直接意見や要望など言えない方もあると思われる為、意見箱などの設置も今後取り入れていくと更に意見を表せる機会の拡大になると思われるので期待したい。
12	16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動等による影響に配慮し、できるだけ異動のないように取り組んでいる。やむを得ない異動の際も引継ぎ期間を設け、入居者への影響を最小限にし、スムーズに移行できるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自主的に内部研修や外部研修へ参加し、グループホーム内で伝達研修の機会を設けている。また、研修の資料はいつでも閲覧できるようにしている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保険者が開催している研修会や情報交換会に参加しお互いに意見交換し、質の向上に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等の希望により入居前にお試し利用を取り入れたり、グループホームのケアを知っていただくために希望により入居者と家族と一緒に宿泊をしていただくこととしており、家族や入居者が場の雰囲気になじめるように、馴染みの品を持ってきていただくなど工夫して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や得意な事をご家族より聞き取りし、その方の力が発揮できるように生活場面に取り入れている。また、お互いに感謝の気持ちを言葉で表現するように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の係わりの中で入居者の思いを把握したり、家族からの聞き取りも行っている。また、ケアプランの作成の際にも本人や家族の意向を聞き取るように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	半年に1回介護計画を作成し、3ヶ月に1回モニタリングを行っている。その際、入居者及び家族の意向や思いなどを把握し、介護支援専門員他職員で担当者会議を持ち、関係者の意見を反映し介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時の見直しはもちろんだが、入居者の状況に応じ、大きな変化がみられなくても、ケアの中での気付きがあった際は、随時家族等にお話して介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望により、本人の行きつけの場所で散髪をしたり、併設施設の協力を得て、健康管理や行事参加など本人の要望にあわせて柔軟に対応できる体制を整えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医との関係性を大切にし、医師及び入居者と家族の納得が得られる医療が受けられるように医師に情報提供し支援している。また、併設施設の看護師の巡回や、嘱託医師の回診を定期的に行っており、安心して生活できるように配慮している。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針を、本人や家族との話し合いにより、できるだけ意向に添った対応ができるように取り組んでいる。また、状況変化に応じ随時柔軟に対応できるように職員全体で取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりの人格を尊重し、居室への入室の際には必ず声をかけるようにしている。また、個人の記録などは、スタッフルームの書庫に鍵をかけて保管している。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに添って、毎日の過ごし方をゆったりできるように柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のペースは栄養士の助言をいただきながら職員が考えているが、食事を楽しむことができるように入居者個々の意向も取り入れている。また、それぞれの力を発揮できるように準備や片付けまで職員と一緒にやっている。自家菜園で採れた野菜などもメニューに加え、旬の物の採れたてを味わえるように工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向に添い、入浴日等を決めずに支援している。月1回夜間入浴も取り組んでおり、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などの把握や本人及び家族の要望により生活の中で力を発揮できるように、掃除・洗濯たたみ・畑仕事・炊事等、生き生き暮らせるための場面作りを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	市内のスーパーや市場などに行き、食材を購入したり、本人の希望により散歩にでかけたり、友人に会いに出掛けるなど外出の機会をもてるように支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルを作成し、勉強会へも積極的に参加している。身体拘束をしないことはもちろんだが、その他、自覚していない身体拘束がないか常にケアのふり返しを行っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけないで自由に出入りできるようにしている。本人が外出したいと思った時には、職員が付添いをし対応している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの整備を行うとともに、消防署や住民による災害協力隊の援助もいただきながら防災訓練に取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分・間食などの摂取が少ない方には、摂取量の把握表を作成し記録している。併設施設の管理栄養士よりアドバイスをいただき取り組んでいる。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを整備している。特にインフルエンザに関しては、手洗い、うがいを徹底的に行い予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室・居間・食堂など色々な場面でくつろげるような空間になっており、それぞれが居心地の良い空間で過ごしている。室内には、装飾品や手作りのものが飾っており、家庭の温かさを感じる空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や顔馴染みの人との写真などが飾られており、居心地のよい居室の工夫がされている。		

 は、重点項目。